

日 時：令和元年10月24日（木） 15:15 ～ 15:55

場 所：選択C教室

記録者：板垣 平

1 指導・助言の先生の紹介・・・高校教育課指導班指導主事 小松隆行先生

2 授業者（久米信彦先生）から

消費税増税の時事ニュースを受け、社会的な「税金」に対する関心を受けて本授業を構成した。グループ学習について、生徒は既習事項を活用しながら積極的に取り組んでいたが、時間配分の面でうまくいかない場面があった点は反省点である。また、課題3「公平な税制とは納税する立場からみてどういう税制か」、課題4「日本の望ましい税制の在り方の提言」については、生徒が取りかかりやすいような発問が必要であった。今後改善していきたい。

3 グループ協議報告

(A グループ 発表 原田先生)

◎良かった点

- ・生徒の一つ一つの発言を丁寧に拾っていて良かった。
- ・発問が明確であった。
- ・事前の役割分担により、スムーズにグループ学習が展開できていた。
- ・既習知識を喚起するような声かけを意識していた。
- ・芸能ニュースなど、生徒の興味関心や生活に関わる話題を提示していた。
- ・「公平性」というキーワードが生徒の印象に強く残っており、話し合いに役立っていた。

△課題・改善点

- ・「課題2」で、メリット・デメリットを考えるときに、「誰にとって」という部分を明示できると、生徒にとって分かりやすい発問になった。主語を明確に。
- ・生徒に対し、根拠を明確にして発表することを意識させると良かった。
- ・導入部分で消費税増税の時事ニュースについて触れると良かった。
- ・資料集や教科書を使う「調べ学習」なのか、既習知識や自らの発想を活用した「話し合い」なのか、指示を明確にすると良かった。

(B グループ 発表 菅原先生)

◎良かった点

- ・個人で考えさせた後、グループで話し合うという手順が良かった。スムーズな意見交換に繋がった。
- ・役割分担をすることで、全員が責任を持ってグループ学習に臨んでいた。
- ・久米先生の巧みな話術が生徒を引きつけていた。
- ・1時間で完結する板書構成になっており、本時のまとめにも活用できるようになっていた。

△課題・改善点

- ・課題テーマが多く、精選した方が議論する活動を確保できる。
- ・他グループに対するリアクションを指示すると良かった（他グループの意見をプリントに記入させるなど）。
- ・グループ内で対立した意見を用いて、「議論する活動」を確保すると良かった。ただの意見交換から一歩踏み込みたい。
- ・既習知識だけでなく、資料集などから新たな知識も与えるとよかった。
- ・生徒の意見を、教師が板書で構造的にまとめて提示すると良かった（メリット・デメリットを表化するなど）。

4 指導助言（小松隆行指導主事より）

- ・非常に活発なグループ学習が見られた。
- ・「答えの出ない問い」を投げかけることで、「教科横断的＝カリキュラムマネジメント」の視点を踏まえた授業構成になっていた。
- ・本時は生徒の思考・表現の力に働きかけることがねらいであった。その際、生徒に求める力をより具体的にすると良い。

⇒「思考」で求められるのは、課題解決するための思考力である。それらの中でも、「分析する」「問を発見する」「統合する」「推察する」など思考力を細分化すると、より具体的に生徒にアプローチすることが出来るようになる。

⇒「表現」については、本時では「言語による表現」が重視されていた。これも更に細分化し、「他の意見との比較や関連づけによって表現できているか」や「根拠を用いて表現できているか」という評価規準を設けてみてはどうか。

